

## Crossing Gazes on the Landscape 風景への眼差しの交叉

竹中悠美

### はじめに

本特集は、2015年11月23日に立命館大学国際言語文化研究所の「風景のイメージとその人類学的諸相」研究会と立命館大学先端総合学術研究科の共催で、ベルリン自由大学美術史研究所の研究者たちと行った国際共同ワークショップ「Crossing Gazes on the Landscape from Berlin and Kyoto / 風景への眼差しの交叉 ―ベルリンと京都から―」での発表を論集として編んだものである。

「風景 Landscape」と呼ばれる空間表象は芸術の主題として、理想化された自然と人、あるいは実在する場所と人との関係を映し続けてきた。一方で、芸術作品を包摂する場所もモダニズム以降の芸術の実践のなかで、そして歴史的・理論的研究のなかで、アクチュアリティに富んだ「風景」として再び立ち現れている。さらに、芸術も人もかつてないダイナミズムで世界中を行き交っている今日、どのような視点からどのような方向・方法で「風景」を論じることが可能であるかという共通課題のもと、以下の8件の研究報告とディスカッションが行われた。

ベルリン自由大学からは、中国画の自然と崇高の表象における共感覚の役割（ジョンヒ・リー・カリシュ）、中国の山岳での書のパフォーマンスと石刻書の伝統の批評的連関（シャオラン・ヘルテル）、根来塗についての伝承に基づく日本の漆器の起源をめぐる歴史地理学的考察（アンジェ・パピスト・マツオ）、明治期日本の舞台デザインの近代化における画家たちの貢献（アンネ・ベルクマン）、20世紀前半の欧米から戦後日本の具体美術協会へといたる屋外美術展の展開（眞峰朋子）、立命館大学からは、アメリカの写真展を常設展示するルクセンブルクの建造物と場所の歴史性（竹中悠美）、ポスト印象主義絵画の受容による日本の風景画と風景観の変容（住田翔子）、大正期に京都衣笠地区に移り住んだ画家たちの制作と居住空間に見る近代化（山本真紗子）というように、ドイツからアジアの美術へ、その逆に日本からヨーロッパの美術へと交叉する多様なアプローチが提示された。発表に続いて活発な質問と意見交換の中で、いくつもの新たな論点が導き出され、共有された。

7件の報告は創思館303・304教室で行われ、最後の山本の報告は、衣笠を代表する画家・木島櫻谷の旧住居である櫻谷文庫の画室に会場を移して行われた。会場の提供と櫻谷の作品や生活についての解説もしていただいた公益財団法人櫻谷文庫の門田理氏と門田節氏、そして本ワークショップ開催のきっかけを与えてくださっただけでなく、司会もお引き受けいただいた神戸大学国際文化学術研究科の藤田一夫教授にこの場を借りて深く感謝の意を表します。

**Table of contents 目次**

Jeong-hee Lee-Kalisch ジョンヒ・リー・カリシュ

Representation of the Non-Representable: Synaesthetic Concepts in Chinese Landscape Painting

表象不可能なものゝ表象 ——中国の風景画における共感覚概念——

Shao-Lan Hertel シャオラン・ヘルテル

Texturing the Landscape: Stone-Engraving Traditions in China as Human Refinement,  
A Contemporary Position

風景のテクスチャリング

——人間の洗練としての中国における石刻の伝統、現代の見地から——

Antje Papist-Matsuo アンチエ・パピスト・マツオ

Iconography of Absence: Negoro Lacquers and the Sacred Geography of Their Origin

不在のイコノグラフィー ——根来塗とその起源である聖地の地理学——

Yumi Kim Takenaka 竹中悠美

Historic Landscapes of Two Spaces for the Steichen Collections in Luxembourg

ルクセンブルクの歴史的風景の中のスタイケン・コレクション

Tomoko Mamine 眞峰朋子

Paradise in a Pine Grove: The Gutai Art Association's Outdoor Exhibitions in the Context of the 1950s

松林の中の楽園 ——1950年代における具体美術協会の野外展——

Shoko Sumida 住田翔子

Discovery of the Islandscape: The Reception of Paul Gauguin by Japanese Painters in the 1910s

島風景の発見 ——1910年代の日本人画家によるゴーギャン受容——

Annegret Bergmann アンネ・ベルクマン

Intertwining Modernities – Painting on the Modernist Stage of Japan

からみ合う複数の近代性 ——日本の近代演劇における絵画——

Masako Yamamoto Maezaki 山本真紗子

An Artist Colony in Kinugasa: “Modernization” of Painters’ Ways of Living

衣笠絵描き村 ——画家たちの近代的生活——